



第41号

スマイル

平成30年7月19日
徳島県立ひのみね支援学校
進路・支援課

～子どもたちが学校，地域で笑顔で輝けるように～



HST（ひのみねスマイル隊）の乳児院訪問

今年度も各学期に1回ずつ徳島赤十字乳児院へ訪問する予定です。1学期は先日7月4日（水）に訪問してきました。今回の訪問では、大型絵本の「ぴょーん」の読み聞かせや音楽に合わせたふれあい遊び、そしてパラシュートを使った遊びをしました。「ぴょーん」の読み聞かせでは、絵本に出てくる動物と一緒にぴょーんと体いっぱい表現してくれる子どももいて、とても盛り上がりました。また、ふれあい遊びでは、一緒に活動するにはまだ少し緊張の面持ちだった子どもたちも、ふれあう中で少しずつ表情がほぐれてきて、HSTのメンバーと笑い合う姿が多くなりました。そして、最後のパラシュートでは、パラシュートの動きに合わせて跳んだり跳ねたり・・・子どもたちの気持ちの高揚が見て取れるほど、笑顔でいっぱいになっていました。2学期には、子どもたちとどんな活動ができるのか、今から楽しみです。



さて、今回参加したメンバーは教職員だけでなく、今年で3年目になる高等部佐河さんや今回初めて参加する中学部の里さんもいました。佐河さんは、乳児院訪問の日が決定する前から「今回はいつ行くんですか？」と楽しみにしていた様子でした。今学期の訪問の日が、就業体験実習の日と重なってしまいましたが、実習後に参加したいと意気込んでいた佐河さんは、「実習で疲れていたけど、楽しかったです。新しい手遊びもできてよかったです」と語ってくれました。乳児院訪問初参加の里さんは、初めてとは思えない堂々とした様子でしたが、里さん曰く「とても緊張した」とのことでした。「パラシュートが楽しかった」と話してくれた里さんは、たくさんの子どもたちが寄ってきてくれたこともうれしかったそうです。



佐河さんや里さんはもちろんのこと、乳児院訪問に参加してくれるひのみねの児童生徒が増えてくれるといいなと思います☆



『特別支援学級担任者研修会（肢体不自由教育）』

5月23日（水）に県内の小・中学校の特別支援学級の担任の方々20名が、本校での研修会に参加されました。午前中は、徳島県立総合教育センターの松本指導主事からの伝達講習や本校の巡回相談員による「センター的機能」や「肢体不自由教育について」の話があり、みなさん熱心にメモをとっていました。また、グループに分かれての情報交換もあり、ICT機器の活用や個別の指導計画の書き方等について討議しました。

午後からは、ひのみね総合療育センターリハビリテーション課 郡作業療法係長から「肢体不自由のある児童生徒の理解と支援について」と題して、肢体不自由児の見え方についての話や補助具（写真1）の紹介がされました。また、本校の山田指導教諭より「ファシリテーションボールを用いた姿勢や動き作り」について、実技を交えながらの講義がありました（写真2・3）。



（写真1）補助具



（写真2）



（写真3）

肢体不自由のある子どもたちが、いきいきと学校生活を送ることができるように、特別支援学級の先生方と協力していきたいと考えています。

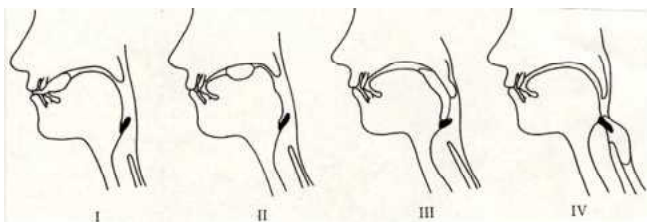


美味しく「いただきます〜す」

自立活動担当



今日も学校では、「先生、昨日何食べましたか？」の会話が教室から聞こえてきます。子ども達にとって食べることは楽しみの一つ。そこで、美味しく、安全に「ごっくん」と飲み込む（嚥下）ための口の中の仕組みについてお伝えします。



出典「食べる機能をうながす食事」
医薬薬出版株式会社

喉頭蓋（塗っている所）



I 舌の中央に食物を集める。

II 口を閉じて舌を上顎に押しつけながら食物を前から後ろに送る。
★★口を閉じて舌が上顎につきやすいように介助してあげることが必要。口の中の容積を狭くすることで後ろへ送りやすくなります。

III 軟口蓋（上顎の後方）を通る時に、嚥下反射を誘発し食道に送る。
★★舌を前後に動かして食物を喉の方に送る練習をしている子どもさんの場合、粒がなく均一で、適度な粘性のある食形態が適しています。

IV 食物が気道に入らずに食道に入るように、喉頭蓋という『ふた』で気道をふさぐ。
★★首の前面の筋肉がリラックスし、顎を閉じてしっかりと固定することで、『ふた』が働きやすくなります。